

带状疱疹予防接種説明書

带状疱疹とは

過去にかかった水ぼうそうのウイルスが原因で起こります。加齢や疲労、ストレスなど免疫力が低下していると、発症しやすくなります。

症状：痛みを伴う赤い発疹、水ぶくれを伴う発疹
3～4週間持続する強い痛みを伴うことが多い。

合併症：带状疱疹後神経痛（皮膚症状が治った後も長期に続く痛み）
角膜炎などによる視力低下、難聴、めまい、顔面神経麻痺など神経障害

ワクチンの種類と特徴

		組換えワクチン（シングリックス）				生ワクチン（ビケン）		
接種回数		2回（2か月以上の間隔を置いて）				1回		
接種部位		筋肉内接種				皮下接種		
発症予防効果		接種後1年時点	接種後5年時点	接種後10年時点	接種後1年時点	接種後5年時点	接種後10年時点	
		9割以上	9割程度	7割程度	6割程度	4割程度	—	
		带状疱疹後神経痛に対する効果（接種後3年時点）						
		9割以上			6割程度			
副反応	頻度	70%以上	30%以上	10%以上	その他	30%以上	10%以上	その他
	症状	疼痛	発赤 筋肉痛 疲労	頭痛 腫脹 悪寒 発熱 胃腸症状	掻痒感 倦怠感 その他の疼痛	発赤	掻痒感 熱感 腫脹 疼痛 硬結	発疹 倦怠感
重大な副反応（頻度不明）		ショック アナフィラキシー ギラン・バレー症候群				アナフィラキシー 血小板減少性紫斑病 無菌性髄膜炎		
接種できない方		免疫の状態に関わらず接種可能				・免疫機能に異常のある病気がある ・免疫抑制をきたす治療を受けている ・妊娠中、妊娠の可能性がある		
注意が必要な方		・血小板減少症 ・凝固障害がある ・抗凝固療法を受けている				・輸血やガンマグロブリン注射を受けた →治療後3か月以上置く ・大量ガンマグロブリン療法を受けた →治療後6か月以上置く		

※医師が必要と認めた場合は、肺炎球菌、インフルエンザ、新型コロナ等のワクチンと同時接種が可能。

予防接種を受ける前の一般的注意事項

この説明を読んで、必要性や副反応について、分からないことがあれば、担当医や看護師に質問しましょう。十分に納得してから接種を受けてください。

予診票は接種をする医師にとって、大切な情報です。責任を持って記入し、現在の健康状態を正しく伝えてください。

(1) 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに熱のある人（通常、体温が37.5度以上ある人）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ ワクチンの成分に対してアナフィラキシーなど重度の過敏症※の既往歴のある人

※アナフィラキシーを疑わせる複数の症状例

- 全身にひどいじんましんが出る
- 呼吸をするときゼーゼー、ヒューヒューと音がする
- 息が苦しい
- 脈が速くなる
- 血圧が下がっていく等

- ④ その他、医師が不適當な状態と判断した人

(2) 接種を受ける前に、医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気などの基礎疾患を有する人
- ② 接種後2日以内に発熱や全身に発疹等のアレルギーを疑う症状があらわれたことがある人
- ③ 今までにけいれんを起こしたことがある人
- ④ 免疫不全と診断されている人、又は先天性免疫不全症の家族がいる人
- ⑤ ワクチンの成分に対して、アレルギーが現れるおそれのある人

予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ① 予防接種を受けた後の30分間は、急な副反応が起きることがあります。医師とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ② 副反応の多くは24時間以内に起こるので、体調に注意しましょう。また、接種後数日の間に、胸痛、息切れ、ぐったりするなどの症状があった場合は、医療機関に受診してください。
- ③ 入浴はかまいませんが、注射部分を強くこすらず、清潔に保ちましょう。
- ④ 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

予防接種健康被害救済制度・医薬品副作用被害救済制度

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすることができないことから、救済制度が設けられています。

医療機関で治療を受けた場合や障害が残ってしまった場合に、「予防接種健康被害救済制度」または「医薬品副作用被害救済制度」により、医療費・医療手当・障害年金の給付などが受けられる場合があります。

ご不明な点は下記へお問い合わせください。